

平成27年度 五泉市図画工作部 活動報告

部長 藤井 香利

1 研究主題

個性的な表現を生み出す手立ての研修を深める。

2 研究の概要

4月15日(水) 組織の構成 役割分担 事業計画立案

6月24日(水) 実技研修「絵画におけるバック処理の指導の仕方」

講師 山川 眞知子様

9月9日(水) 研究授業「友だちといっしょに」 橋田小学校教諭 酒井 芳彰

10月14日(水) 新津美術館作品鑑賞「さくらもこの世界展」

3 研究の実際

(1) 実技研修 絵画におけるバック処理の指導の仕方 (会場 村松小学校)



絵画指導をしていると、背景を描いたときに厚塗りになり、テーマがはっきりしなくなったり、丁寧に塗れなかったりすることがある。そこで、子どもの思いや意欲を広げるバック処理の様々な方法について指導していただいた。

ア 画材について

絵の具、クレヨン、色鉛筆、コンテ、水彩絵の具、マーカー、パステルなど多様な道具がある。それぞれの道具の効果的な表現の仕方を教えていただいた。

イ バック処理の方法

絵の具を落とす。押しつける。同系色で線を引く。紙をぬらした上から刷毛で塗る。スタンプを押す等である。また、バックを濃い色にした時は、前に出るものの周りを少し白く残すとよいことも教えていただいた。

(2) 授業研修「友だちといっしょに」～みんなで育てたひまわりを描こう～(会場:橋田小学校)

本題材は、生活の場を発想の原点として描く絵画題材である。自分の生活の中での出来事を思い出して描くということがねらいである。自分たちが育てたひまわりを「どんなことを考えながら育てたか」思い出させ意欲をもたせ、グループに実物の葉を配り、スケッチペンで描かせた。彩色では、枯れた感じを出すように混色を教えた。協議会では、以下のような話し合いが行われた。

ア 絵の具の使い方

色のたし算でみつけた色を一覧表にしておくと同番で彩色するとき活かすことができる。水の調整や絵の具の出し方が難しい。水の調整には、側に雑巾を置き、拭き取りをこまめにやらせるとよい。また、絵の具の出し方やパレットの使い方について先生方の意見を出し合った。

イ 自由に試す経験

本時は、色作りを中心にした活動であった。色作りの実験であるならば、もっと子どもたちに自由に塗らせ、グループごとにどんな色を混ぜたら自分の思いにぴったりの色ができたか、話し合わせるとよかった。

4 成果と課題

「個性的な表現を生み出す」には、自分の思いを形や色などで表すために、基礎的な能力を身に付けなければならない。今年度の研修では、水彩絵の具の使い方や様々な技法を学ぶことができた。授業研修では、表したいことを表すために色を作る活動を行った。このような活動を授業に取り入れることで、表したいことを見つけて表す力がついてくるのだと考える。

図画工作における基礎的な能力をしっかりと捉え、子どもたちがつくり出す喜びを味わうことができる授業に今後も取り組んでいきたい。